

DENIKA

2013年度 決算説明会

2014年5月9日

1. 2013年度 決算概要	
① 前年比	P. 1
② 前年比 (増減要因)	P. 2
③ 前年比 (セグメント別)	P. 3
2. 2014年度 業績予想	
① 前提条件等	P. 4
② 前年比	P. 5
③ 前年比 (増減要因)	P. 6
④ 前年比 (セグメント別)	P. 7
3. 経営計画「DENKA100」	
数値目標と新成長戦略	P. 8
「生産体制の最適化」と「コストの総点検」	P. 9
「成長ドライバーへの資源集中」と「次世代製品開発」	P. 10
デンカイノベーションセンター	P. 11
2014年度以降の計画	P. 12
経営資源の積極的投入	P. 13
4. 主要経営指標と株主還元	P. 14

1. 2013年度 決算概要 ① 前年比

単位：億円

	実 績	前 年	増 減	主な増減要因
売上高	3,768	3,416	+ 352	エラストマー・機能樹脂 + 30 インフラ・無機材料 + 8 電子・先端プロダクツ ▲ 3 生活・環境プロダクツ ▲ 15 その他・消去 + 4
(海外売上高の割合)	(33. ⁵ %)	(30. ³ %)	(+ 3. ² %)	
営業利益	212	188	+ 24	← + 24
(営業利益率)	(5. ⁶ %)	(5. ⁵ %)	(+ 0. ¹ %)	金融収支改善 他 + 4
経常利益	206	178	+ 28	← + 28
				法人税負担増 他 ▲ 5
当期純利益	136	113	+ 23	+ 23

1. 2013年度 決算概要 ② 前年比 (増減要因)

単位: 億円

売上高 3,768 (+ 352)

- ①数量差: CR・内需製品の販売増加 (+ 77)
- ②価格差: 円安効果・原燃料価格高騰の価格への転嫁 (+ 275)

営業利益 212 (+ 24)

- ① 数量要因: 売上高数量差 + 77 × 平均限界利益率 26 % (+ 20)
- ② 交易条件: 為替 (価格 +255 > コストアップ ▲ 219) (+ 36)
 為替以外 (価格 +20 > 電気代他 ▲ 35) (▲ 15)
- ③ コスト負担増: 固定費増 ▲ 6 他 (▲ 12)
- ④ 在庫の影響 [2012年度 (+)21 → 2013年度 (+) 16] (▲ 5)

1. 2013年度 決算概要 ③ 前年比 (セグメント別)

単位: 億円

売上高	実績	前年	増減
エラストマー・機能樹脂	1,665	1,428	237
インフラ・無機材料	496	479	17
電子・先端フロッタックツ	421	392	29
生活・環境フロッタックツ	780	773	6
その他	406	344	62
合計	3,768	3,416	352

販売価格差	数量差
245	▲ 9
4	13
10	19
16	▲ 9
0	62
275	77

営業利益	実績	前年	増減
エラストマー・機能樹脂	40	10	30
インフラ・無機材料	40	32	8
電子・先端フロッタックツ	27	30	▲ 3
生活・環境フロッタックツ	95	109	▲ 15
その他 / 消去差	11	7	4
合計	212	188	24

販売価格差	数量差	コスト差等
245	16	▲ 232
4	6	▲ 2
10	5	▲ 18
16	▲ 9	▲ 21
0	1	3
275	20	▲ 270

2. 2014年度 業績予想 ① 前提条件等

単位：億円

前提条件	2014年度 予想	2013年度 実績	2012年度 実績	2014年度 第2四半期 予想	2013年度 第2四半期 実績		
	為替レート [円/\$]	103.0	100.2	83.1	103.0	98.9	
国産ナフサ [円/Kg]	70,000	67,300	57,500	70,000	64,950		
参考数値	2014年度 予想	2013年度 実績	増減	2014年度 第2四半期 予想	2013年度 第2四半期 実績	増	減
	設備投資額	300	257	43	130	103	27
減価償却費	230	223	7	110	109	1	
研究開発費	114	108	6	57	55	2	
有利子負債残高	1,250	1,207	43	1,300	1,275	25	

2. 2014年度 業績予想 ② 前年比

単位：億円

内需製品・電子材料販売数量増加

「インフラ」・「健康」分野を中心とした主力製品需要拡大

	2014年度 予 想			2013年度 実 績		
		4～9月	10～3月		4～9月	10～3月
売上高	4,000	1,920	2,080	3,768	1,814	1,954
営業利益	250	105	145	212	105	108
(営業利益率)	(6.3%)	(5.5%)	(7.0%)	(5.6%)	(5.8%)	(5.5%)
経常利益	235	95	140	206	107	100
当期純利益	180	70	110	136	75	61

2. 2014年度 業績予想 ③ 前年比 (増減要因)

単位: 億円

売上高 4,000 (+ 232)

- ①数量差: クロプレノ Gum・電子材料等販売増 (+ 175)
- ②価格差: 原燃料アップ価格転嫁 (+ 57)

営業利益 250 (+ 38)

- ① 数量効果 : 高付加価値製品出荷増 (+ 102)
- ② 交易条件 : 為替 (価格 + 26 > コストアップ ▲ 20) (+ 6)
 為替以外 (価格 + 31 > 電気代他 ▲ 30) (+ 1)
- ③ コスト負担増 : 工場固定費 (修繕・償却他) 本社費増 (▲ 60)
- ④ 在庫の影響 : [2013年度 (+) 16 → 2014年度 (+) 5] (▲ 11)

2. 2014年度 業績予想 ④ 前年比 (セグメント別)

単位: 億円

売上高	2014年度	2013年度	増減
エラストマー・機能樹脂	1,740	1,665	75
インフラ・無機材料	520	496	24
電子・先端フロッタックツ	500	421	79
生活・環境フロッタックツ	840	780	60
その他	400	406	▲ 6
合計	4,000	3,768	232

販売価格差	数量差
47	28
10	14
▲ 12	91
13	48
0	▲ 6
57	175

営業利益	2014年度	2013年度	増減
エラストマー・機能樹脂	40	40	0
インフラ・無機材料	45	40	5
電子・先端フロッタックツ	50	27	23
生活・環境フロッタックツ	105	95	10
その他 / 消去差	10	11	▲ 1
合計	250	212	38

販売価格差	数量差	コスト差等
47	18	▲ 65
10	10	▲ 14
▲ 12	54	▲ 19
13	21	▲ 23
0	0	▲ 1
57	102	▲ 122

数値目標（2017年度）

連結営業利益	600 億円 以上
営業利益率	10% 以上
海外売上高比率	50% 以上

新成長戦略

- ① 生産体制の最適化
- ② 徹底したコストの総点検
- ③ 新たな成長ドライバーへの経営資源集中と
次世代製品開発への取り組み

「生産体制の最適化」

海外市場向け製品：極力現地生産

国内工場：内需型製品・高機能品へ特化

具体的施策

合繊「トヨカロン」	➡	シンガポール工場	(2013年 7月 稼働開始)
PVC テープ	➡	ベトナム工場	(2015年 5月 稼働予定)
食品包材シート	➡	中国工場	(2014年 12月 稼働予定)
電子回路基板	➡	製造プロセスの一部を海外移転	(2013年 秋)
特殊混和材	➡	中国工場	(2014年 3月 操業開始)
		東南アジア	(2014年 1月 現地メーカーへ出資)
酢酸ビニルモノマー	➡	事業撤退	(2014年 4月 生産停止)
ABS・特殊樹脂	➡	集約・工程改善	(2015年 5月 目標)

3. 経営計画「DENKA100」新成長戦略②

「成長分野への資源集中」「次世代製品開発」

成長4分野 「環境」「エネルギー」「インフラ」「健康」

具体的施策

NIMS-DENKA 次世代研究センター (2013年 6月開設)

山形大学との包括共同研究 (2013年 10月協定書調印)

電池材料技術ベンチャーとの資本提携強化 (2013年 9月)

超高純度アセチレンブラック製造設備新設 (2014年 4月着工・2015年5月稼動予定)

検査試薬事業拡大 新規感染症POCT・超悪玉コレステロール 等

デンカイノベーションセンター本館 (2014年 4月竣工)

デンカ イノベーション センター

機能

- ①新たな価値創造のためのイノベーション研究の拠点
- ②オープンイノベーション推進のためのツール
- ③外部に広く開かれた社会貢献の場

組織

- 先進技術研究所 ▶ 環境・エネルギー分野
- ライフイノベーション研究所 ▶ 健康分野
- インフラソリューション開発研究所 ▶ インフラ分野



未来に飛躍するための基地

2014年度以降の計画

- ✓ イノベーション研究推進と次世代製品開発
- ✓ 海外展開の推進継続
 - 放熱部材製品
 - 電子部品搬送用フィルム
 - クロロプレンゴムなど
- ✓ M&A・資本提携・技術提携の推進
- ✓ 生産体制の最適化
 - ワクチン・検査試薬 増産・近代化

3. 経営計画「DENKA100」 経営資源の積極的投入

2017年に向けた経営資源の積極的投入

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度 予想
研究開発費	98	106	106	108	114
設備投資	213	229	270	257	300
減価償却費	223	232	216	223	230
売上高	3,579	3,647	3,416	3,768	4,000
(海外売上高比率)	(27.4 %)	(27.7 %)	(30.3 %)	(33.5 %)	(37 %)
営業利益	246	207	188	212	250
(営業利益率)	(6.9 %)	(5.7 %)	(5.5 %)	(5.6 %)	(6.3%)

4. 主要経営指標と株主還元

単位：億円

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度 予想
--	------------	------------	------------	------------	------------------

純利益	143	113	113	136	
総資産	4,020	4,026	4,154	4,313	
純資産	1,681	1,727	1,807	1,895	
(自己資本比率)	(41. ² %)	(42. ³ %)	(43. ¹ %)	(43. ⁵ %)	

配当性向	34%	43%	42%	34%	25%
配当(円/株)	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
自己株式取得		27	19	30	30

R O E	8. ⁹ %	6. ⁷ %	6. ⁴ %	7. ⁴ %	9%
-------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	----

2014年3月末

発行済株式数 465.9 百万株
(除く自己株式 16.0)

今回の自己株取得

取得株数上限 8 百万株
取得価額上限 30 億円

資本効率向上

10% 以上

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。